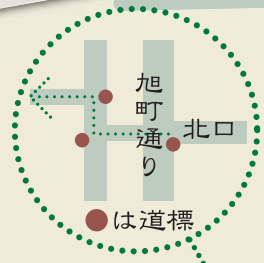
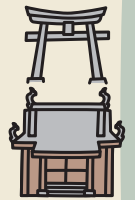


いまばり探求
桜井
さくらい



国分山
城下町の名残
(短冊状地割)



①古天神
(道真伝説)



梅林

④小谷屋
漆器店

月原漆器店

銀行



今治街道

旭町通り

北口

松林
戸倉屋漆器店



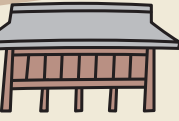
②新天神
(道真伝説)



⑤肥前
灯ろう



月賦販売
発祥碑



絵馬堂

保育園



③志島ヶ原

道真が
お礼に贈った
神像を祀る



素波神社
(道真伝説)

※観梅会
の
時季のみ



梅林

⑥石造
灯明台



コンビニ

38

GS

海

海防に備えて、松山藩が
安政2(1855)年に築造



お台場(土塁)

文化15(1818)年に
紀州黒江の椀折敷間屋が
寄進したもの

黒江
灯ろう



道真が濡れた衣を
乾かしたという



衣干岩
(道真伝説)

桜井河口港

漆器倉庫跡



内港波止
(古い石積み)



椀船が寄港した内港と漆器倉庫
(昭和13年/近藤福太郎撮影)

江戸時代後期頃から、桜井商人は紀州黒江の漆器を大量に仕入れ、西国方面へ廻船行商を行うことで躍進。やがて桜井でも漆器製造を始めるものが現れ(天保年間頃)、明治後期～大正期頃に最盛期を迎えます。その頃に、桜井商人が中心となって、漆器・呉服・家具などを取り扱う月賦販売を始め全国に広めています。

江戸時代に桜井地域を支配したのは今治藩(古国分・国分)と松山藩(桜井・長沢・孫兵衛作・旦・登畑・宮ヶ崎)で、藩主はともに久松松平家で菅原道真を先祖とします。松山領は明和2(1765)年に天領となり(後、松山藩預り地)、当地域の年貢米は桜井港から別子銅山に回漕されています。